

船員の確保・育成



“Spirit of MOL”は、2008年4月、国際海上安全賞2008を受賞しました。この賞は、海上安全に関する国際的専門誌「Safety at Sea International Magazine」がスポンサーとなり、ロイズ・レジスター・フェアプレイ社が主催して昨年創設されました。受賞の対象は4部門（機器／装置・システム・訓練・マネージメント／オペレーション）で、“Spirit of MOL”は、このうち訓練部門にて受賞しました。船員の訓練に有効かつ積極的に投資していること、船員の資質として必須の異文化理解の教育を多国籍の訓練生へ施し、シーマンシップの育成に目覚ましい効果をあげていること、が評価されたものです。



“Spirit of MOL”

——世界に類をみない試み

船舶の隻数の増加と大型化に伴い、発生する海難事故の件数と規模が世界的に増大しています。当社はMOL ADVANCEの最重要課題に掲げた安全運航を達成するために、組織体制の整備と350億円の安全対策投資に踏み切りました。しかし、刻々と変化する海上のリスクを的確に認識し、事故を未然に防止するのは現場を預かる乗組員の技量・知識・経験・判断にかかっています。そこで、良質な輸送サービスを提供するためには、まず『良質な船員づくり』が必要との考えから、船員の教育・訓練体制の更なる強化に取り組んでいます。その一環として、訓練専用の船を購入し、“Spirit of MOL”と名付けて2007年7月から各国の職員候補生の航海訓練を始めました。民間会社が訓練船を独自に保有・運航するのは世界でも初めての試みです。

質を伴った量を確保するために

——MOLの船員育成システム

当社は船隊規模の拡大に沿って、2008年3月現在の船員数約12,000名を、MOL ADVANCE最終年の2010年3月には約13,500名まで増加させる計画です。船舶の増加による船員不足が懸念される中、当社の要求水準を満たす優秀な船員をいかに多く確保するかが、将来にわたって安全運航を維持する上での鍵となります。そしてこの戦略の延長線上に、訓練船“Spirit of MOL”があります。

国際的に認可された船舶職員免状を取得するには、「船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約」に規定された最低乗船履歴と同等、もしくはそれ以上に各国が独自に定めた一定期間の乗船履歴が必要となります。日本以外の多くの国では船員教育機関が訓練船を持っていないため、商船学校の在学



生あるいは卒業生は、船舶職員免状を取得するための乗船機会を民間船社に求めることになります。当社は従来から自社運航船に各国商船学校の卒業生を配乗し、Cadet（職員候補生）として必要な乗船実習を施し、免状取得後は当社の船舶職員として乗船させるなどのOJT（オンザジョブトレーニング＝職場実践訓練）による実務を中心とした教育・訓練を行ってきました。



しかし昨今の船員需要の急増に応えるために、当社は訓練船“Spirit of MOL”による集中的なオフザジョブトレーニングを船員育成の軸に加えしました。同船には当社の船員トレーニングセンターから派遣された約10名の専任講師が乗船し、きめ細かな訓練カリキュラムに沿って4～6カ月間の集中的な安全教育と基礎訓練を施しています。そこでは、海技知識だけでなく、船員としての態度・生活習慣をもCadetに習得させています。最大約180名に及ぶ様々な国籍の若者が、一つの船の中で多くの体験を共有することにより、異文化を理解し、当社船員としての誇りや連帯感を抱き、帰属意識を芽生えさせていきます。更にCadet達は、免状取得に必要な残りの期間を、オンザジョブトレーニングとして当社運航船に乗船し、生の現場知識と船種毎に異なる運航実務の習得を行います。このような訓練船“Spirit of MOL”と自社運航船を併用する育成プランにより、確かな基礎の上に、応用力を磨き、即戦力を身に付けたMOL船員が誕生することになります。

一方、陸上では、当社は世界7カ国（日本・フィリピン・インド・モンテネグロ・クロアチア・インドネシア・ロシア）で船員トレーニングセンターを運営、また主要船員供給国の海事系大学と提携して船員幹部候補生プログラムや奨学金制度を提供し、優秀な人材の育成に努めています。